

原油市場展望

2023年3月



調査部 マクロ経済研究センター

<https://www.jri.co.jp/report/medium/oil/>

◆本資料は2023年3月6日時点で利用可能な情報をもとに作成しています。

◆ご照会先：調査部 副主任研究員 松田健太郎 (Tel : 080-4176-4439 Mail : matsuda.kentaro@jri.co.jp)

◆日本総研・調査部の「経済・政策情報メールマガジン」は下記URLから登録できます（右側QRコードからもアクセスできます）。

新着レポートの概要のほか、最新の経済指標・イベントなどに対するコメントや研究員のコラムなどを随時お届け致します。

<https://www.jri.co.jp/company/business/research/mailmagazine/form/>

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。



原油価格見通し：80ドル前後で底堅く推移

原油

◆現状：70ドル台後半を中心に推移

2月のWTI原油先物価格は、上旬に米国の一段の金融引き締め観測などからエネルギー需要の減少が意識され、一時70ドル台前半へ下落。その後は、①中国景気の回復期待、②トルコの地震による石油パイプラインの損傷、③ロシアの3月の減産発表などから、月半ばにかけて80ドル台乗せ。

月後半は、EIA（米エネルギー情報局）が公表する原油在庫の増加が市場予想を上回ったほか、FOMC議事要旨でFRBによる金融引き締め姿勢が強いことが明らかとなり、70ドル台半ばへ下落。

3月入り後は、市場予想を上回る中国経済指標などを受けて80ドル近くへ反発。

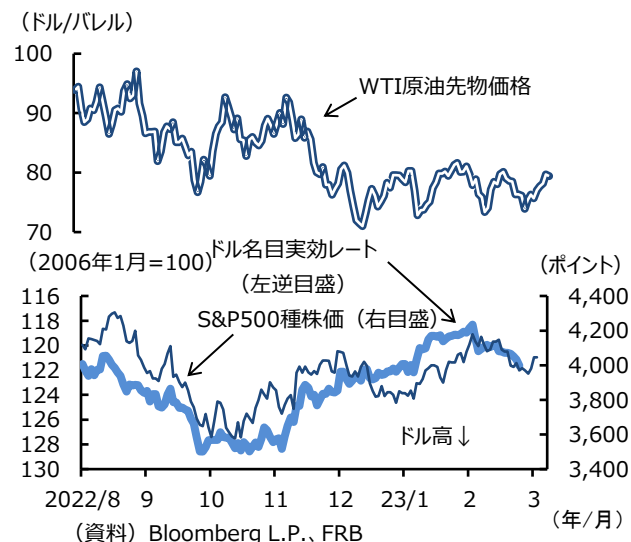
◆投機筋の買い越し幅は拡大

ゼロコロナ政策の撤廃に伴う中国景気回復期待などを背景に、投機筋による原油先物の買い越し幅は拡大傾向が持続。

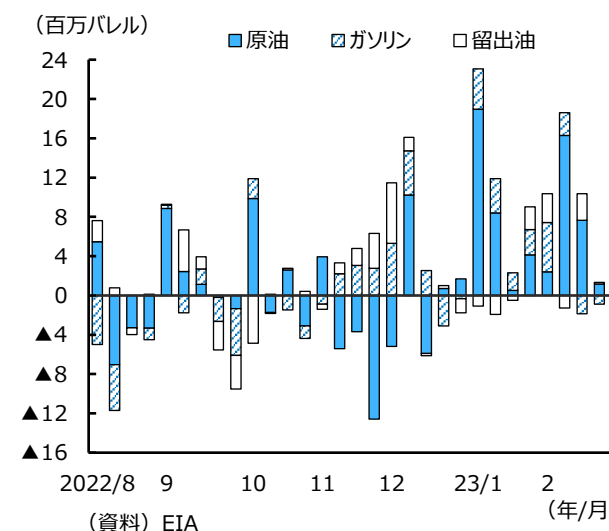
◆見通し：底堅い展開へ

先行きを展望すると、原油価格は振れを伴いながらも80ドル前後で推移する見通し。当面は、主要国の金融引き締めにより世界景気が減速するとの見方が強く、原油需要の減少が意識されやすい展開。ただし、①中国のゼロコロナ政策の撤廃、②OPECプラスの減産スタンスの継続、③米国の原油増産ペースの鈍化が、需給を引き締め、相場を下支えする見込み。

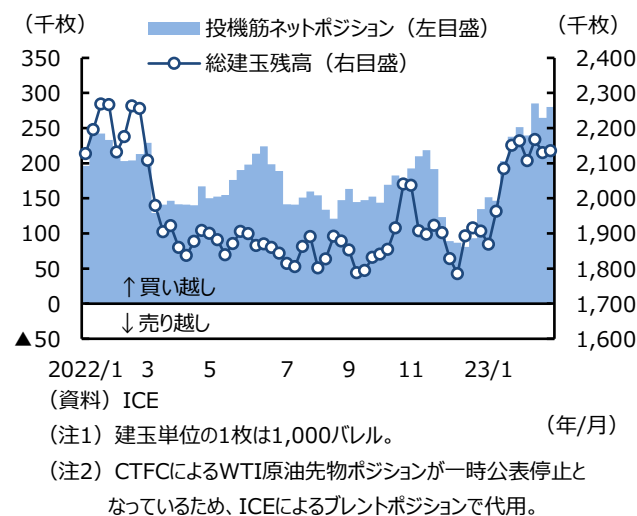
原油価格と株価・為替レート



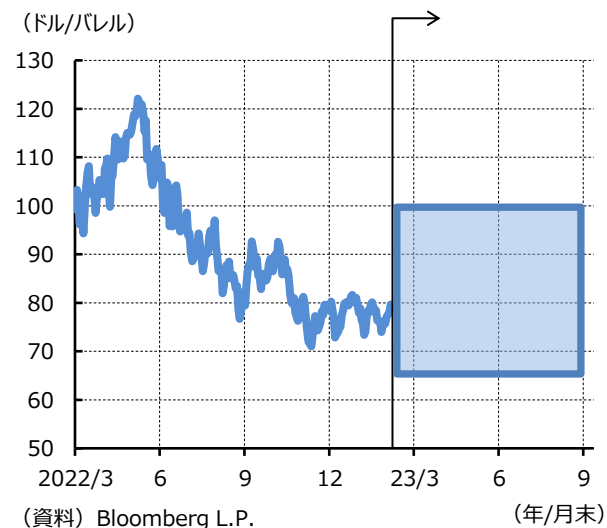
米国の原油・石油製品在庫（前週差）



北海プレント原油先物ポジション



WTI原油先物価格見通し



トピック：ロシアやOPECの原油生産低迷で需給ひっ迫リスク

原油

◆原油供給を巡るリスクは残存

世界の原油需要は、中国のゼロコロナ政策撤廃に伴い着実に回復するとの見方が大勢。IEA（国際エネルギー機関）などの原油需要見通しは年後半にかけて増加。一方、原油供給は、以下2点を背景に停滞する可能性。

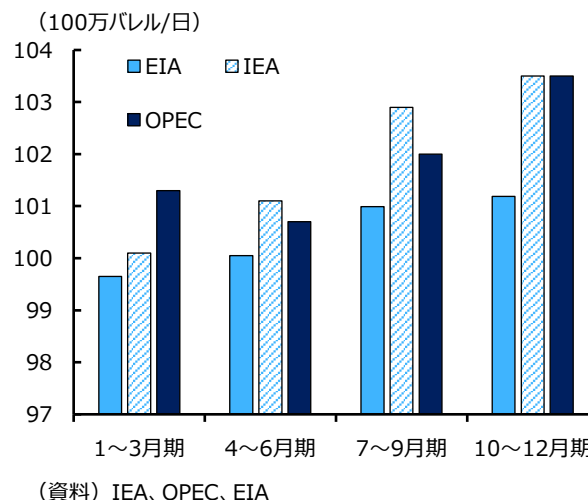
第1に、ロシアの減産。ロシアは、3月中の日量50万バレルの自主減産を発表。ロシアでは、ウクライナ戦争の長期化を受けて歳出が拡大する一方、ロシアの石油・ガス収入は大幅に減少。ロシア産原油の代表油種であるウラル原油価格は足元で60ドル割れ。減産によって原油価格を底上げし、歳入を確保することが狙い。

第2に、OPECプラスの増産への慎重姿勢。OPECプラスは2022年10月会合で日量200万バレルの減産に転じて以降、世界経済を巡る不確実性の高まりなどを理由に需要を見極める方針を維持。次回6月会合で減産幅を縮小することがメインシナリオながら、原油価格を高値圏で維持したい産油国は、安易な増産には踏み切れない状況。

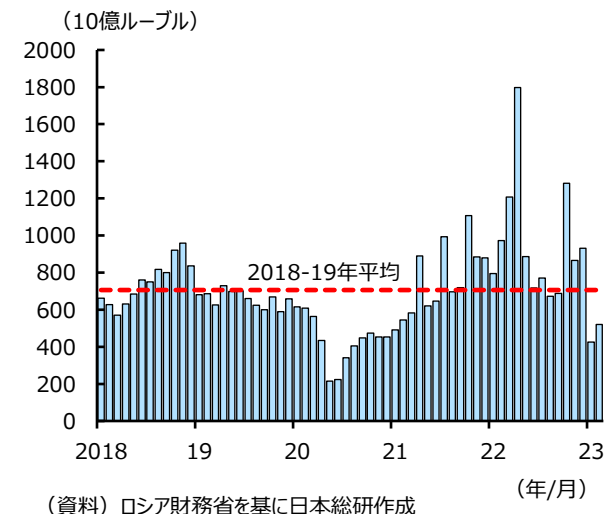
◆大幅な需要超過が価格上昇圧力に

今後、ロシアが減産するとともにOPECが増産を実施しない場合、世界の需給バランスは年後半にかけてコロナ禍からの回復期と同程度の日量200万バレル近い需要超過に。原油価格への上昇圧力が高まる可能性。

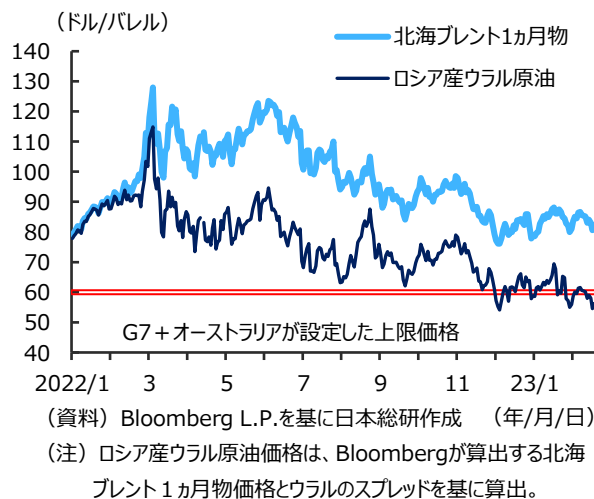
各機関の2023年原油需要見通し



ロシアの石油・ガス収入



北海ブレント原油先物価格とウラル原油価格



世界の原油需給バランス

